

# ひびき

教育目標「なかよく かしく たくましく」

—一人一人が大切にされる学校・風通しのよい学校—

多治見市立共栄小学校 R6.5.1

## 元気いっぱいの歌声があちこちから響いています！

—70年間歌われてきた校歌の願いを受け継いだ学校づくりをめざします—

共栄小学校長 加藤 隆史

4月23日(火)の1年生を迎える会では、初めて全校そろって共栄小の校歌を歌いました。どの学年も、この日に向けて練習をしてきたこともあり、体育館中に響く素晴らしい校歌の合唱となりました。迎える会の後も、朝の会や音楽の時間等、あちこちで元気いっぱいに校歌を歌う声が聞こえてきます。まさに、コロナ禍明けならではの素敵な光景です。



共栄小学校の校歌は昭和29年、今から70年前に制定されました。昭和29年の学校要覧を紐解くと、当時の全校児童は279名で今よりも児童数は多かったです。そして、校舎は高田町の八幡神社の横にありました。その学校要覧には、共栄小の教育目標が以下のように記されています。

健康で 日常生活に必要な基礎的な知識技能を習得し、自主協同 相互尊敬の態度を身につけた全人的な子供の育成

2番の「自主協同はわがほこり」という歌詞は、この目標からきているといえます。「自主性」や「協働」は今の子どもたちにも付けたい力です。昔も今も願う子どもの姿の方向性は同じであるといえます。

また、校歌の1番には「溪北の土地白き丘 若葉や紅葉照り映えて輝くところ」と共栄地区の自然豊かな様子や2番には「陶器の煙なごやかに 立ちゆくところ」と陶磁器産業が盛んな様子が描かれ、「ふるさと共栄」のよさに誇りをもち大切にしていきたいという思いを感じます。さらに、3番には「世界の希望見聞きして 我らはここによく育ち」と世界の人々と共同して、よりよい未来を創造していこうという願いが感じられます。

「ふるさとへの愛着と誇りをもちながら、主体的に国際社会と協働できる人材」が今求められる中、とても大切にしたい内容の歌詞です。

そんな素敵な願いをもった共栄小校歌の意味を子どもたちも感じながら、元気にいっぱい歌い続けていってほしいです。

### 共栄小学校 校歌

作詞 栗 聖歌  
作曲 平内 照幸

一、溪北の土地 白き丘  
若葉や紅葉 照り映えて  
輝くところ 我が母校  
うてどうてども よく組んで  
仲良く学ぶ われら  
多治見市立共栄小学校

二、自主協同は わがほこり  
陶器の煙 なごやかに  
立ちゆくところ 我が母校  
うてどうてども よく組んで  
仲良く学ぶ われら  
多治見市立共栄小学校

三、世界の希望 見聞きして  
我らはここに よく育ち  
きたうるところ 我が母校  
うてどうてども よく組んで  
仲良く学ぶ われら  
多治見市立共栄小学校